

～ガバナーメッセージ

「ロータリー財団の父 アーチ・クランプ」

国際ロータリー第 2590 地区
ガバナー 湯川 孝 則



11月は、「ロータリー財団月間」です。そこで、ロータリー財団の父と言われている「アーチ・クランプ」について、ともに語り合しましょう。

ロータリー財団が設立されたのは、今から100年前の1917年です。当時の会長アーチ・クランプが米国ジョージア州アトランタの国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他、社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と提案し、ロータリー基金が創設されました。そして、1928年のミネアポリス国際大会で「ロータリー財団」として正式に命名され、現在に至っています。

なぜ、アーチ・クランプは、ロータリー基金の設置を呼び掛けたのでしょうか。彼の生い立ちを調べてみましょう。彼は、1869年6月6日、ペンシルバニア州コネチカットの貧しい家庭に生まれました。12歳のときに一家の暮らしを助けるために学校を中退し、ほぼ独学で勉強しました。18歳の時にクリーブランドのキューヤホガという会社の給仕となり、1日1ドルの給料をもらっていました。その後、努力して会社の社長になり、28年後にはその会社のオーナーになるとともに、貯蓄貸付組合の社長や、汽船会社の副社長に

就任しました。そして、クリーブランドにとどまらない商業活動や地域社会活動を行ない、ついには米国オハイオ州の実業家として成功したのです。^(注)日本では、パナソニック(株)の創業者である松下幸之助氏の人生を重ね合わせるすることができます。松下氏も、尋常小学校を4年で中退し、苦学して1918年に松下電気器具製作所を創業し、現在のパナソニック(株)を築き上げました。

1917年当時の世界情勢をみると、1914年に始まった第1次世界大戦の真ただ中にあり、1917年4月には、アメリカがドイツに宣戦布告して参戦しています。まさに戦争によって世界中が混迷し、多くの物的・人的被害がもたらされていた時代です。こうした時代だからこそ「世界で良いことをしよう」というメッセージは、多くの人達の共感を得ることになったのかも知れません。

アーチ・クランプは、「私たちは、自分のためだけに生きるべきではありません。誰かのために“よいこと”をする喜びのために生きるべきです」という言葉を残しました。この言葉は、100年を経過した今でも、ロータリアンの心の中で生き続けています。そして、これからも、より良く生きるための大切な考え方として輝き続けることでしょう。

(注) 参考文献：ロータリー百科事典